

シリーズ
11

男のみち (未知・道)

- 等身大の表象 -

シリーズ11「男のみち—等身大の表象」では、「さまよえる男」が登場する映画を取り上げ、バリアフリー上映とデフムービーという切り口から新しい映画表象を模索していきます。未知なる映画上映の模索。ヒーローではなく等身大に描かれた男性の道。この二重の「脱中心化」から、我々は何を受けとることができるのか…

1月14日(土)



酔いがさめたら、うちに帰ろう。

バリアフリー上映

「パーマネント野ばら」などの漫画家・西原理恵子の元夫で戦場カメラマンの鴨志田穰による自伝的小説を「風音」の東陽一監督が映画化。重度のアルコール依存症になった男と、彼を支え続ける家族との絆を描く。シナリオ段階からバリアフリー上映化の議論を交わし制作してきた結果、新たな視点で映画を体験できる作品となったと言う。出演は浅野忠信・永作博美・市川実日子など。

2月4日(土)



手紙

バリアフリー上映

直木賞作家・東野圭吾の社会派小説を映画化した人間ドラマ。原作は、犯罪者の家族に突き付けられる厳しい現実という衝撃的で重いテーマが、大きな反響を呼んだ。主演は山田孝之(「電車男」)、玉山鉄二(「逆境ナイン」)、沢尻エリカ(「パッチギ!」)。監督は『3年B組金八先生』など数々のヒットドラマを手がけてきた名匠、生野慈朗である。

3月10日(土)



迂路

デフムービー上映

記憶喪失のまま、繁華街をうろつく男、曾我辰夫。浪費と借金だらけの人生。キャンブルに手をかけては、女と遊びまくる。そんなどうしようもない奴が、ある時追われる身となる。「僕はいったい、何者なのだ!?!」辰夫の寂しい心は、記憶の彼方へと導かれてゆく…。2006年にカナダのトロントで開催された「国際ろう映画祭」で最優秀作品に選ばれた話題作。主演はNHK手話ニュース845キャスターでもあるろう者の俳優、那須英彰。



ゲスト

やまがみ てつじろう
山上 徹二朗さん
(株式会社シグロ代表)

1954年、熊本県生まれ。1986年にシグロを設立以降、翰光やジャン・ユンカーマン監督作品を含む、70本以上の記録映画と劇映画を製作し、国内外で多くの賞を受賞している。主な作品に『絵の中のぼくの村』、『酔いがさめたら、うちに帰ろう。』(いずれも東陽一監督)、『エドワード・サイード OUT OF PLACE』(佐藤真監督)、『花はどこへいった』(坂田雅子監督)、『沈黙を破る』(土井敏邦監督)など。



聞き手



松原 洋子(まつばら ようこ)

(立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)

専門は科学史。身体と科学/技術と文化の関係を研究中。シネマで学ぶ「人間と社会の現在」ではシリーズ4「生きがたさのなかで-子どもと希望」、シリーズ7「挑発する女たち-アートの臨界」を企画コーディネーター。生存学研究センター副センター長。

ゲスト 京都リップル

ふかだ れみ
⑤ **深田 麗美さん**(代表)

1980年、京都生まれ。同志社大学経理課勤務の傍ら、大学在学中の2003年に立ち上げた「京都リップル」で現在も活動中。障害について理解を求める講演と、映画に日本語字幕・副音声をつける「バリアフリー上映」の普及活動を精力的に行っている。

ふかだ みちこ
⑤ **深田 美知子さん**(字幕/副音声班 班長)

娘のためにビデオに日本語字幕を入れることを始め、聴覚言語障害センターや京都ライトハウスでボランティアをしながらリップルの活動を続ける。フリーアナウンサーの経験を生かし、楽しみながら字幕/副音声制作に携わっている。



聞き手



甲斐 更紗(かい さらさ)

(衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー)

ろう者。ろう学校育ち。専門は臨床心理学、聴覚障害心理学。著作に『聴覚障害者の心理臨床2』(日本評論社)。最近ではIT技術を用いた聴覚障害者支援に関心をもっている。



ゲスト

おおだて のぶひろさん
(プロディア代表)

1959年、茨城県生まれ。ろう映画制作グループ「デフムービーエンターテインメント プロディア」代表。2006年にカナダで開かれた「国際ろう映画祭」で上映した「迂路」が大賞に輝き、世界各国からも大きな反響を呼ぶ。主な作品に『小さな下町』『ありとときりぎりす』最新作『寄りびと』がある。



聞き手



尾鼻 崇(おばな たかし)

(立命館大学 非常勤講師)

専門は音楽学/映像音楽論。視聴覚メディアの音楽に関する研究を進めている。主な業績は「初期ハリウッド映画における古典的な映画音楽手法の確立」、「(老化)するゲーム文化—ビデオゲームの三つのエイジングをめぐる」など。立命館大学ゲーム研究センター構成員。



この公開講座は映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。上映後の対談や講義とあわせて、映画の持つ「時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえば胸さわぎのする発想」に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。講座終了後、ロビーにておいしいコーヒーをお出ししております。憩いのひとときと共に、講師や聴講された皆様で交流を深めていただながら、結論のない、あるいは結論がひとつではない、対話を楽しむ道楽としての「シネマ人間学」をじっくりと楽しんでいただければと思います。

シリーズ11 男のみち (未知・道) - 等身大の表象 -

1 1月14日(土)

バリアフリー上映



酔いがさめたら、うちに帰ろう。



2010 / 日本 / 118分 / シングロ、バップ、ビターズ・エンド
監督：東陽一 制作：山上徹二郎
出演：浅野忠信、永作博美、市川実日子、利重剛、藤岡洋介

対談

ゲスト

山上 徹二郎さん(シングロ代表)

聞き手

松原 洋子(先端総合学術研究科 教授)

2 2月4日(土)

バリアフリー上映



手紙



2006 / 日本 / 121分 / ギャガ・コミュニケーションズ
監督：生野慈朗
出演：山田孝之、玉山鉄二、沢尻エリカ、吹石一恵、尾上寛之、田中要次、山下徹大、石井苗子、原実那、松澤一之、螢雪次朗 他

対談

ゲスト

深田 麗美さん(京都リップル代表)

深田 美知子さん(同・字幕/副音声班班長)

聞き手

甲斐 更紗(衣笠総合研究機構
ポストドクトラルフェロー)

3 3月10日(土)

デフムービー上映



迂路



2005 / 日本 / 55分 / プロディア
監督・脚本：おおだてのぶひろ 制作：早瀬憲太郎
出演：那須英彰、直井貴司、加藤晴美、岡野めぐみ、高 正次、佐藤清春、
大倉麻里、池谷 勇、鈴木茂男、内野沙紀、中村総一郎、金井保夫 他

対談

ゲスト

おおだてのぶひろさん(プロディア代表)

聞き手

尾鼻 崇(立命館大学 非常勤講師)

※ バリアフリー上映 聴覚障害者用日本語字幕と音声ガイド(オープン方式)付での上映。

※ デフムービー上映 「聾映画」のプロフェッショナル「プロディア」が作成する無声映画の上映。

※対談では、聴覚障害をもつ方の情報保障としてパソコン要約筆記を小スクリーンに投射します。また、「バリアフリー上映」では日本語字幕をつけるほか、ご来場のお客さま全員に、音声ガイドが聞こえるオープン方式で行います。なお、「デフムービー上映」では無声映画の特性を生かすため、音声ガイドはつきません。

主催：立命館大学・立命館大学生存学研究センター

共催：京都シネマ 協力：シングロ、ギャガ・コミュニケーションズ、プロディア

企画コーディネート：神谷雅子(京都シネマ代表、産業社会学部 教授) 甲斐更紗(衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー)
松原洋子(先端総合学術研究科教授) 尾鼻崇(立命館大学 非常勤講師)
中村正(応用人間科学研究科 教授) 加藤有希子(衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー)

会場 立命館大学朱雀キャンパス 5F 大ホール

JR 二条駅、地下鉄東西線二条駅 徒歩5分
(※駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい。)

【参加費】 一般 ¥800

京都シネマ会員 ¥500

立命館大学学生・教職員 ¥500

【時間】 13:00 開場 13:30 開演 / 上映開始
15:30 講座(対談)

朱雀シネマ CAFE は講座終了後(16:30~予定)となります。

(※講座/朱雀シネマ CAFE 開始時間は上映時間により変動します。)

*当日 13:00 よりチケットの販売を開始します(事前の受付・整理券の配布はございません)

*満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承下さい。



【お問い合わせ先】

立命館大学 社会連携部社会連携課

TEL: 075-813-8110(平日 9:00~17:00)

FAX: 075-813-8167

E-mail: cinemas@st.ritsumei.ac.jp

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地

